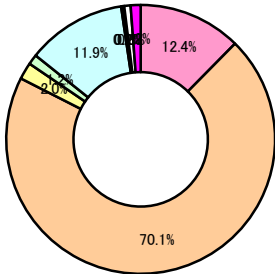


サンメッセ株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：印刷業 ● 事業概要：一般商業印刷を中心に出版印刷、包装印刷を営む総合印刷会社 ● 事業規模[任意]：売上 154億93百万円、拠点数 本社・5支店・3工場、海外 1子会社、従業員数 720名)
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1 + 2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：2030年に2013年比で省エネ法を上回る削減 （取り組みとして工場での省エネと電力の再エネ化を推進）</p> <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：2030年に2013年比でScope 1 + 2と同程度の削減率 （Scope3の80%を占めるカテゴリ-1の主要な用紙の原単位を改善する。自らが業界最大手の大日本印刷・凸版印刷に働きかけた結果、製紙業界の用紙のCO2排出原単位改善の推進に印刷業界が協力することを検討中。）</p>

サンメッセ株式会社

項目	内容				
3.基準年のGHGインベントリ	● Scope 1・2・3の排出量の状況				
	分類	名称	数量	割合	● SCOPE1 : 2,126.8 [tCO2] ● SCOPE2 : 8,151.2 [tCO2] ● SCOPE3 : 72,714.7 [tCO2] 目標の対象カテゴリー : 1
	SCOPE1-2	CO2排出量	10,278.1 t	12.4%	
	カテゴリー1	購入した製品・サービス	58,183.0 t	70.1%	
	カテゴリー2	資本財	1,682.3 t	2.0%	
	カテゴリー3	燃料・エネルギー関係	1,007.7 t	1.2%	
	カテゴリー4	輸送・配送(上流)	9,909.7 t	11.9%	
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	143.4 t	0.2%	
	カテゴリー6	出張	162.7 t	0.2%	
	カテゴリー7	雇用者の通勤	635.5 t	0.8%	
	カテゴリー8	リース資産(上流)	0.0 t	0.0%	
	カテゴリー10	販売した製品の加工	0.0 t	0.0%	
	カテゴリー11	販売した製品の使用	0.0 t	0.0%	
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	990.4 t	1.2%	
	カテゴリー13	リース資産(下流)	0.0 t	0.0%	
カテゴリー14	フランチャイズ	0.0 t	0.0%		
合計値		82,993.0 t			
			<ul style="list-style-type: none"> ■ SCOPE1-2 ■ カテゴリー1 ■ カテゴリー2 ■ カテゴリー3 ■ カテゴリー4 ■ カテゴリー5 ■ カテゴリー6 ■ カテゴリー7 ■ カテゴリー8 ■ カテゴリー10 ■ カテゴリー11 ■ カテゴリー12 		

サンメッセ株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に森林資源起源の用紙調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資引上げにつながることも懸念される。 ● 印刷物を多用する顧客がESGの取組みが積極化しており、当社に対して、今後GHGの削減要請が高まることが想定される。 ● 印刷業は消費エネルギーの中で電力比率が高いため、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達のコストの削減につながる可能性がある。 ● 自らが持続可能性につながる気候変動対策を推進し、その知見や関連情報を得ることによって、当社が事業展開している客先のコーポレート・コミュニケーションに関するニーズを捉えたプランニングやクリエイティブの提供を深化することができる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の経営の中で地球環境のリスクと機会を位置づけるため、中長期環境目標の策定を計画。この中で気候変動の目標が2度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。 ● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えるにことを示し、コア事業のビジネスチャンスを拡大することを期待。

サンメッセ株式会社

<p>6.目標設定のプロセスと社内の議論</p>	<ul style="list-style-type: none">● 品質保証室及びソリューション戦略推進部で目標案を検討後、役員会で社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへの提出を目指す。役員会においては、中長期環境目標の策定の過程で気候変動のリスクと機会を検討することで、野心的な全社目標の必要性の共有を図る。● 目標を高く設定したが、CO2排出量削減に取り組まないことのリスクや、社会的要請に応じてバックステイキングで目標を設定するという方針を説明し、理解を得る予定。
<p>7.今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none">● Scope2の削減において、再生可能エネルギーの活用が必要であるが、非化石証書を活用して排出原単位を下げた電力の利用等について検討していくことが必要である。● Scope3のカテゴリ1の削減目標の達成のために、Scope3の80%を占めるカテゴリ1の主要な用紙の原単位を改善する。野心的な目標を達成するために、印刷業界として製紙業界に対して用紙の原単位改善を訴求するとともに連携・協力する。